



海邊に視察したカニを、次々とつかまえてくる。母、感動のまなざし。父、ちよっぴり悔しそう。わが子と二階に海の生き物を観察するうちに、大人もいつしか夢中になってしまふ、そんなひとときだ。

イノ一観察とは逆に、潮が満ちる時間帯に楽しめる海の遊びに、シーカヤック散策がある。島人の間で、カンちゃん、と親しまれている上里寛さんの案内で、奥武島の沖に浮かぶ、小さな無人島へ渡ってみることにした。

浅瀬でカヤックの基本練習をざっと済ませた後、いざ海へ。ええ、もう？私、初心者なんですけど……

「大丈夫サア。小学生だってフツーに体験してるんだからヨ（笑）」

上里さんの教え方は「習うよりも慣れよ」が基本。だが、潮の流れが速く、波が荒いところに行くと、びったりとカヤックを寄せ、体を張って参加者を守ってくれる。海にまつわる興味深い話に耳を傾けながら、パドルを握るうちに、気が付けば、カヤックと一体となつて波間を走る自分がいた。

無人島では、木陰で昼寝を愛しむもよし、上里さんが沸かしてくれたコーヒーを飲みながら、おしゃべりに興じるのもよし。「ここへ来たなら、何もし



聞こえるのは波の音だけ。美しい海を独り占める気分はこたえられぬ



1シーカヤック散策の案内人・上里寛さん(浮世)と、各種プログラムをコーディネートしてくれる「島の学校(伊良島)」事務所の石原淳(いー)らあつちさん。2無人島で見かけたツルアザシの実。3サンゴ礁の海は限りなく透明に近い

